

今週（5月17日から5月21日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、新しい積み期間に入ったことで一部にレートを引き下げる先も見られたものの、全体的には堅調な資金調達意欲が継続していた。無担保コールO/N物は、週を通して地合いに大きな変化は無く、邦銀の調達を中心に▲0.03～▲0.005%近辺の出会いが中心となった。加重平均レートは、概ね▲0.01%台半ばでの推移となった。ターム物は、1～2W物を中心に▲0.01～▲0.005%の水準で引き合いが見られた。日銀当座預金残高は、概ね520兆円台後半での推移となった。

●レポ市場

今週のGC T/Nは、▲0.100～▲0.085%程度のレンジでの出会い。17日のT/Nは▲0.095～▲0.085%程度、短国買入オペがオファーされた18日のT/Nは▲0.100～▲0.090%程度、短国1Y物と5Y物国債の発行が重なる19日のT/Nは▲0.095～▲0.085%程度となり、20日のT/Nも19日とほぼ横ばい程度での推移、21日のT/Nは一時的にオファーが薄くなる局面があったため、▲0.110～▲0.085%程度で推移した。

SCは、個別銘柄では2y410～424、5y140～147、10y340～362、20y170～175、30y59～70、40y9～13等、カレント近辺の銘柄に引き合いが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、引き続き閑散なマーケットとなる中、1Y物がやや軟調な推移となった。19日入札の1Y物は無難な結果となったものの、その後の流通市場で伸び悩む展開となり、▲0.120%近辺での推移となった。一方、21日入札の3M物は順調な結果となり、入札後もやや強めの買いが見られる展開となった。

18日に実施された短国買入オペは、前回と同額の10,000億円でオファーされた。平均落札利回較差、按分落札利回較差ともに+0.006%と、やや弱めな結果となった。

19日に実施された1Y物の入札は、平均落札利回▲0.1218%、按分落札利回▲0.1198%と無難な結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは▲0.123～▲0.122%出会いと、底堅く推移した。

21日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.103～▲0.102%での出会いが見られる中、平均落札利回▲0.1046%、按分落札利回▲0.1042%と順調な結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットで特段の出会いは見られなかったものの、▲0.110%近辺で買い気配が見られるなど、やや強含みで推移した。

●CP市場

今週のCP発行市場は、償還総額3,600億円程度に対して、発行総額6,000億円程度となり、五・十日発行を中心に小売・石油・電力等から大型発行が実施された。市場残高は、先週に引き続き23兆円台後半での推移が続いている。発行レートに関しては、新型コロナ対応オペの担保需要から引き続きマイナス圏での決着が中心となっている。ただ、前回のCP等買入オペのレート上昇の影響もあってか、強いマイナス圏での買い需要は全体的に減少している。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート（翌日物・ T+1スタート・%）	日銀当座預金残高 （億円）
5/17（月）	27,824.83	0.075	109.43	△ 0.015	△ 0.090	5,269,900
5/18（火）	28,406.84	0.075	109.20	△ 0.016	△ 0.092	5,273,500
5/19（水）	28,044.45	0.070	108.99	△ 0.016	△ 0.091	5,288,900
5/20（木）	28,098.25	0.080	109.23	△ 0.015	△ 0.091	5,256,200
5/21（金）	28,317.83	0.078	108.86	△ 0.014	△ 0.087	5,267,000

来週（5月24日から5月28日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
5/24 (月)		TB6M 34,000億円 5/25発行			
5/25 (火)		流動性供給 5,000億円 5/26発行	交付税借入 11,000億円 6/2借入		4月の米新築一戸建て販売件数 3月のS&P/ケース・シラー住宅価格指数 5月の米CB消費者信頼感指数
5/26 (水)	月例経済報告（内閣府） 4月の企業向けサービス価格指数(日銀 8:50)				
5/27 (木)		40Y 6,000億円 5/28発行			1-3月期の米GDP改定値 4月の米耐久財新規受注
5/28 (金)	4月の労働力調査(完全失業率 総務省 8:30) 5月の都区部消費者物価指数(CPI 総務省 8:30) 4月の一般職業紹介状況(=有効求人倍率 厚生労働省 8:30)	TB3M 63,000億円 5/31発行			4月の米個人所得・消費支出 5月のシカゴPM景況感指数

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
5/24 (月)	200	3,900	4,100	CP買入 国債補完	▲ 300 100		▲ 200	3,900	TB3M発行▲65000償還63800 20Y発行▲12000
5/25 (火)	0	▲ 7,000	▲ 7,000	社債買入 新型コロナ支援	▲ 37,400	800	▲ 36,600	▲ 43,600	TB6M発行▲34000償還25800 国有林野事業借入▲638 期日552
5/26 (水)	0	8,000	8,000	全店共通	▲ 2,900		▲ 2,900	5,100	地方貸し 流動性供給▲5000
5/27 (木)	▲ 1,000	15,000	14,000				0	14,000	
5/28 (金)	▲ 1,000	▲ 3,000	▲ 4,000				0	▲ 4,000	40Y発行▲5000
週 間 合 計	▲ 1,800	16,900	15,100	—	▲ 40,500	800	▲ 39,700	▲ 24,600	

5/24は日銀予想、5/25以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、堅調な資金調達意欲が継続すると見られ、無担保コールO/N加重平均レートは▲0.01%台半ばでの推移が続くと予想する。レボ市場は、GC T/Nは、▲0.100～▲0.080%のレンジでの推移を予想する。短国市場は、24日に6M物、28日に3M物の入札が実施予定となっている。需給やレート水準を含め、市場動向が注目される。また、26日に実施が予想される短国買入オペのオファー額にも注目したい。CP市場は、5月末を目前に控えて、例年通り事業法人の資金需要が旺盛になると見込まれる。発行市場の動向が注目される。また、26日にはCP等買入オペが予定されている。動向が注目される。

主要なイベントは、海外では27日に1-3月の米GDP改定値が予定されている。

- ◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- ◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
- ◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。